

■ あなたと色

あなたの見ている空や木々、太陽はあなたの隣の人にも全く同じように同じ色で見えているのでしょうか？また、同じ人でも、その日なにか落ち込むようなことがあったり苛立つようなことがあるのでしょうか？また、言葉では「ガ (ga)」と言っている映像に、「バ (ba)」と言っている音声を組み合わせると、「ガ」でも「バ」でもなく、「ダ (da)」と聞こえるマザーク効果という現象があります。これは私たちが人々の発している言葉を、音よりも目から入ってくる情報を根拠とし、実際に言っている言葉と異なる言葉を勝手に変換して受け取ってしまっている証拠といえます。私たちは同じ音の言葉でも見方によって自分勝手に変換、錯覚してしまうところがあります。そうすると、私たちは物事を見るときに何を基準にしていたらよいのでしょうか？これは価値観によっても変わってくるものです。また錯覚もあるでしょう。ですから私たちは隣の人が同じものを見てもそれが全く同じ色だと判断できるとはいえません。「私には色をつける権利がある。」このように言った先天性障害を持った女性があります。彼女にとって目が見えないことは暗闇ではありません。そして手で触れることができなくても、目で見ることで以上にたくさんのお話を判断し、想像することができます。彼女にはできるのです。私たちに色をつける権利があります。それは物事に対してそれをどう見るか、感じるか、そしてそれにどんな色をつけるかということです。あなたの人生の歩みはどんな色で理解していますか？

■ ダビデの生き方から学ぶ

詩篇 119 編 18 節で『私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちに奇しいことに目を留めるようにしてください。』とダビデは歌いました。これは彼が人生の中で絶えず行っていたことでした。これが色をつけるということです。あなたには色をつける権利があります。私たちは物質に色を感じるのではなく、その物質そのものに色を感じるのではなく、その物質に光が当たり、反射されたものの屈折を目で見ると判断しています。では、もし全ての物質がそのように色を放っているのであれば、あなたの人生に起きる全てのことも色を持っているということにならないでしょうか。あなたの人生に起こりうる様々な出来事について、あなたはそれをどう理解しますか。物事の色をどう感じ取るかで、私たちはダビデのように純粋に神様に祈りを捧げることもできず、反対に不平不満を神様にぶつけることもできるのです。ダビデが神様に対し賛美し祈った 119 編は、人間的に見るととても辛い時期に歌われたものです。なぜなら忠実に仕えた愛するサウル王に追われていたとさだめられたからです。サウル王はダビデが彼のためにした全ての功績を感謝というのではなく、嫉妬や自分を脅かす色として受け取ってしまいました。こうしてサウル王は物事の見方を正しく進ませることができず人生の大半を狂わせてしまいました。しかし、それは私達も同じです。私達も自分が傷つけられそうになったとき、目の前に起きることをまっすぐに捉えることができず、側面から見たら、正しく捉えることができなくなったりしてしまいます。特に人の言動について、人は以前に起こった出来事に対する記憶に基づいて判断してしまいます。例えば裏切られた経験がある人は相手が初めて会う人であっても裏切るのではないかとという色で見えてしまうという状態になってしまうのです。前そうされたからと決めつけ、勝手に色をつけてみるようになってしまうのです。しかし、そんなに人の色が黄色であったり黒になったり時に青だったり簡単に変わるものではないでしょうか？そうではなく、あなたの見方がコロコロ変わっているのではないのでしょうか？あなたが正しいと思っている行動以外のことを見るときに、あなたはどんな目で見、どんな色をつけるのでしょうか？あなたが物事をどのように見て判断しているかによって、人を生かすも殺すもするのです。神様は朝日や光の中で色に染められた木々など美しいもの、良いものを見せるためにこの世界に色を与えてくださいました。だとするならば、あなたはどのように色を見ていきますか？ダビデは詩篇 119 編を作ったとき、愛し慕った王様に命を狙われ、普通の人から見れば絶体絶命、夢も希望も見出せないような状況でした。しかし彼は神の奥義を知っていました。だからこそ神様の捉えを喜ぶことができました。彼の先を生きたアブラハムやヤコブ、モーセなどの生き方に倣い、サウル王を徹底的に許し、神様からの訓練をプレゼントとして受け取ったのです。だから彼はどんな状況であっても相手のことを黒と判断しなかったのです。迷ったとしても必ず神様が道を教えてくださっているというのをダビデは知っていたのです。私達は人生の中でどうにもならないことやどうしても許せない問題にぶつかることがあります。もしそれを過去の経験によって解決しようとするならば、私達は道に迷い、「もうダメ」、「解決できない」、「自分には関係ない」などと人間的な黒色の判断をして終わりにしてしまいます。しかし、神様が『みおしえのうちに奇しいこと』をしようとしているのに、あなたの人間的な物事に対する判断によって色を塗ってしまうのは、美しい宝石に黒いペンキを塗って、これはただの石だと言っているようなものです。それではもったいないです。あなたの中に何の根拠もないのにこうだと決め付けていることはないのでしょうか。この人はこういう人でもう変わらなさと決め付けていませんか？それは恐いことです。あなたがもしそうするならば、きっとあなたもそうされるでしょう。『さばいてはいけません。さばかれないためです』と聖書にあるように、あなたがもし裁くなら、裁いたように裁かれるのです。私達は一人ひとり個性があり、みんな違います。任せられないことも違います。なかにはそれを十派一からげとして考え、従えない群れを排除しようとする動きもあります。しかしそれは正しいことでしょうか？私達は「神を愛し隣人を愛す」という神学にのっ

とって、自らの良心に従い神様からのメッセージをそれぞれに任せられている場所で、みことばと照らし合わせてどう生きるかが大事ではないでしょうか。ロゴスで語られた知識は、知恵によって完結される。それはレイマによって成るのです。もしイスラム国のことを黒だと思つて排除しようとする人がいるならば、それは間違いで、しっかりと見つめその中でその色を知らなければいけません。なぜならそれはあなた自身だからです。誰でも一人くらい「この人がいなければいいのに・・・」と思ってしまう人がいるのではないのでしょうか。そんな思いを持つあなたの心こそ、イスラム国なのです。私達は心で人を殺し、彼らはそれを行動に移す、神様からすれば同じような事を行っているのです。ですから自分の心としっかりと向き合い、神様の前に見る目を変えなければいけません。

■ ①レッテルを貼らない 神様の目線を知る

レッテルを貼るというのは自分の判断で勝手に色をつけることと言えます。人は相手の姿を聞く以上に目で見て判断し、この人はこういう人だからと決め付けてしまいます。ですが、そのような見方が部落・人種差別など社会的な問題を生んだのです。決して悪いのは本人ではないのです。私たちがもし、愛を一杯受けて親の姿から夢を抱くことができたならどうだったでしょうか。反対にお前はダメだとレッテルを貼られ、自分はそうしか生きられないと勘違いしたままだったらどうだったでしょうか。神様は私達を素晴らしく造られました。もし今悪いところがあるならば人格そのものではなく、その悪い部分だけを取り除けばよいのです。私達は一人ひとり違います。ですからレッテルを貼るのを止め、神様がその人をどうみているかを知りましょう。物事を正しく判断するには、聖書の中でどう解決されたかを見て実践しなければいけません。クリスチャンである私達は今進められていること、あなたの周りで行っていることがそれがいいのかを考る役割があります。間違ったこの世の習慣を正すためにイエス様は来られました。病める人は排除するという世の中で、病める人を癒すことをされました。今、世界には色々な人権の問題がありますが、それ以上に私達たちの周りにはレッテルを貼ることによる悪い影響を与えている問題があります。まず、私達たちの物事の色を変えていきましょう。

■ ②見るべきところを見る 見やすい色に注意

もしあなたに苦言を呈する人と、なんでも同調してくれる人がいたら、あなたはどちらの意見を聞きますか？私達は自分にとって聞きやすいほう、見やすいほうを選ぶほうが楽です。ですが、良いことばかりを言ってくれる人がいい人でしょうか？あなたに対して苦言を呈してくれる人こそいい人ではないでしょうか。もし仮に自分の悪口を言う人がいても、その人を黒だと決め付けずに、その人の言葉を真摯に受け取っていきましょう。あなた自身は完璧に造られましたが、長く生きていく間にしみや汚れがついてしまいます。このシミや汚れを取ってくれるのは、あなたに対して喜ばしくないことを言ってくれる人の言葉です。一見悪い言葉に思えるものも、真摯に受け止めるならば、あなたの態度の中に潜んでいるその悪い部分を取り除くことができるのです。ダメなものもダメと言ってくれる人の言葉が、神様の目からみて本物であるならば、自分にとって受け取り難いものであっても、それを宝として受け取りましょう。

■ ③本来の色を知る 信じる心

あなたは今、空を見て何色と感じるのでしょうか。それを創造された神様はどうしてそれを造ったのでしょうか？神様は人々に何を伝えたかったのでしょうか？…私たちが空を見上げるとき、私達は神様の愛の広さを知ることができます。空の色は幸せの色なのです。あなたが見ている世界の色、決して黒色=悪ではなく、黒にも美しさがあります。神様が造った色、その色をつけるのはあなたに権利があると言いました。しかしもし、イライラした状態でこの世界を見るならきれいな色だって汚れてしまいます。ですから私達は本来の色を知ってなければいけません。ヨハ 4:35-37 にあるように、刈入時期の色が分からない人はまだ早いといって時期を逃してしまうのです。私達は神の時その時に正しい判断ができるように、神様の奥義を理解し、本当の色を理解しなければいけません。自分と向き合い本来の色に戻り本来の色の役割を果たしていきましょう。

まとめ

この情報社会のなか、私達たちの周りには目に見えるもの、耳に聞こえるものがたくさんあります。恐ろされることもあるでしょう。しかし、私達は神のなかで正しく物事をみていかなければいけません。それをするためには自分の判断でなく、みことばを土台にした判断が必要となります。「よ見るところによらずして、信仰によりて歩むべし」とあります。私達たちがみことばを聴く飢餓から守られ、信仰にたって正しい色を理解し、行動していくことができるように、日々神様を見上げて歩んでいきましょう。